

令和5年度

# 授業改善推進プラン

東京都北区立浮間中学校

# 令和5年度 学力向上を図るための全体計画

北区立浮間中学校

令和5年度「北区基礎・基本の定着度調査」を受けての各教科の分析	
国語	全学年に共通して、「主体的に学習に取り組む力」が他の項目と比較すると低い結果になっている。1人1台端末を活用し、わからないことがあったら調べたり、間違えた問題を繰り返し練習したりするような取組を授業に取り入れていくことで、「学習の仕方」を定着させる。
社会	1、2年生は、全体点数が区平均に近く、全国平均をやや下回っている。既点別結果で、特に「思考・判断・表現」の正答率が低い項目が多い。3年生は、概ね区平均だが、全国平均よりは低い。観点別では、「知識・技能」の抵当率が低い。単元終了ごとに語句や資料に関する小テストを実施するなどして、基礎的な内容の習得を図る。
数学	全学年に共通して、観点別結果の知識・技能は目標値をやや上回っているが、思考・判断・表現では下回っている。基本的な計算技能の向上を継続させながら、それを基として文章題などの既習事項を利用した問題が解決できる力の向上を目指す。
理科	1年生については全観点目標値に届かず、主体的に学習に取り組む態度の観点では大きく下回っている。2年生についても主体的に学習に取り組む態度の観点では大きく下回っている。主体的な学習ができる力の育成を目指す。
英語	3学年では4技能全体をとおしてリスニングの正答率が最も高く、読むこと、書くことにおける課題が見られた。2学年ではリスニングを苦手とする生徒が多く、読むこと、書くことにおいては目標値に達成できている。バランスよく4技能を授業の中で取り入れつつ、基礎基本の定着、応用力を身につけさせていく。

本校の教育目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>○自ら考え正しく判断し、主体的に行動できる生徒(知)</li> <li>○感性豊かで思いやりのある、礼儀正しい生徒(徳)</li> <li>○心身ともに健康な生徒(体)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>◎明るい未来を切り拓く生徒の育成(令和4年度の重点目標)</li> </ul>

本校が生徒に育成したい力
<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒一人一人の「確かな学力」の育成</li> <li>○豊かな感性と思いやりの心の醸成</li> <li>○志高い自立した個人及び社会の形成者としての資質・能力の育成</li> </ul>

学力向上にかかわる経営方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)を推進し、基礎的・基本的な知識・技能を定着させ、これらを適切に活用できる能力をもった生徒を育成する。</li> <li>・習熟度別指導(数学)を行うことにより、学ぶ意欲を全教科に広げ、学力の定着、向上を目指す。</li> <li>・一人1台端末や高速ネットワークを活用し、放課後学習や過程学習の定着を図る。</li> </ul>

校内における学力向上推進体制
<ul style="list-style-type: none"> <li>○研修会を中心としたQUを活用した学力向上のための研究授業等の充実</li> <li>○授業改善推進担当による改善計画・調査分析・活用等の充実</li> </ul>

本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・指導方法	教育課程編成上	校内における研究	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> <li>・能動的に学び続ける資質や能力を育成するために、生徒の対話を通じた問題解決型の学習を取り入れ、アクティブラーニングを推進する。</li> <li>・個別最適な学びを実現し、自主学習の定着を図るために、授業におけるICT機器の活用を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学…全学年で少人数習熟度別授業</li> <li>・英語…全学年でALT等による英語コミュニケーション授業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学ぶ意欲や態度の向上を図るための研究授業の実施</li> <li>・電子黒板、タブレットを活用したICT授業の工夫、学習形態の改善</li> <li>・生徒の実態や小中一貫教育と連動した指導の工夫・連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導と評価と支援の一体化の推進・自己評価や相互評価など活用による生徒の評価能力の育成や意欲の向上</li> <li>・生徒による授業評価を踏まえた授業改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒や保護者アンケートの活用による授業改善への反映、保護者への意識啓発</li> <li>・学校評議員への実態報告と理解への啓発</li> <li>・学校だより、ホームページなどにより、学習・学力向上への取り組みの理解と協力啓発</li> </ul>

	内容別結果の分析	観点別結果の分析	正答率分布等も踏まえた調査結果の全貌
第1学年	<p>全体の正答率を見ると、目標値を上回っている。項目ごとに見ると、「漢字を読むこと」や「文学的な文章の内容を読み取る」、「我が国の言語文化に関する事項」については、目標値を大きく上回っている。しかし、「インタビューの内容を聞き取る」や「話すこと・聞くこと」については目標値を大きく下回っている。</p>	<p>「知識・技能」は目標値を上回っているが、自治体の平均正答率と全国の平均正答率を下回っている。 「思考・判断・表現」は目標値と全国の平均正答率を上回っているが、自治体の平均正答率を下回っている。 「主体的に学習に取り組む態度」は全国の平均正答率を上回っているが、目標値と自治体の平均正答率を下回っている。</p>	<p>約80%の生徒が正答率50パーセントを超えている。教科の評定別人数比では、約40パーセントの生徒が4に相当している。各クラスの正答率は2.5ポイント程度の開きが見られ、ほとんど差はない結果となっている。</p>
	<p>課題の見られた設問</p> <p>「インタビューの内容を聞き取る」設問において、意図に応じて、話の内容を捉え、適切な質問をすることができていない。 小学校で学習した漢字を正しく書けていない。 「説明的な文章の内容を読み取る」設問において、情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理することができていない。 「文章を書く」設問において、自分の考えを明確にして書くことができていない。</p>	<p>授業改善策</p> <p>文学的な文章を読むことはできているが、説明的な文章の内容を理解して整理したり、自分の考えを明確にして書いたりすることに課題があるため、説明的文章の読解や文章を書く指導に力を入れる。具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の要旨を捉えたり、段落ごとに内容を確認する。</li> <li>・目的に応じて文章の構成を考え、自分の意見をわかりやすく書く。</li> </ul>	
第2学年	<p>内容別・領域別にみても、目標値を下回っているのは、「話し合いの内容を聞き取る」「話すこと・聞くこと」の二つであり、そのどちらも、「自治体平均」「全国平均」をも下回っている。 「文学的な文章の内容を読み取る」は、目標値を9.7ポイント上回り、「自治体平均」「全国平均」をも上回っている。 「漢字を読む」は目標値を7.9ポイント上回り、「読むこと」は目標値を7上回っている。</p>	<p>3観点のどれも目標値を上回っているが、最も上回っているのが、4ポイントの「思考・判断・表現」、次が2.5ポイントの「知識・技能」。「主体的に学習に取り組む態度」は0.7ポイント。</p>	<p>正答率分布等も踏まえた調査結果の全貌</p> <p>「話すこと・聞くこと」に課題がみられる。相対的にみると、「読むこと」の結果がよい。</p>
	<p>課題の見られた設問</p> <p>「聞くこと」と「漢字の書き」が低い。</p>	<p>授業改善策</p> <p>「聞くこと」が他に比べて低いのは意外である。長文読解のポイントが比較的高いことや、通常の授業でも、興味関心をもって取り組んでいる様子が感じられることなどから考えると、話を聞くことに対する集中力の問題かとも考えられる。生徒が興味を持って聞こうとするようなテーマの簡単な「聞き取り問題」から練習していき、次第に慣れさせたい。 「漢字の書き」については、日ごろから地道に取り組ませる具体的な形(練習プリント、小テストなど)を考えていきたい。</p>	
第3学年	<p>内容別結果の分析</p> <p>ほぼすべての項目において、目標値を上回っている。その中でも「発表の内容を聞き取る」「文法・語句に関する事項」「説明的な文章を読み取る」の項目では、区の平均正答率も合わせて上回っている。昨年度課題であった「文章を書く」課題の無回答者の多さも改善され、正答率も目標値を上回った。用言の活用についての問題は、目標値を20ポイント上回った。</p>	<p>観点別結果の分析</p> <p>「知識・技能」「思考・判断・表現」は目標値は上回っているが、区の平均正答率、全国の平均正答率は下回っている。 「主体的に学習に取り組む態度」は目標値、区の平均正答率、全国の平均正答率すべてにおいて下回っている。</p>	<p>正答率分布等も踏まえた調査結果の全貌</p> <p>約80%の生徒が正答率50%をこえている。教科の評定別人数比では、約半数の生徒が4に相当している。各クラスの正答率は69から77の間となり、クラス間の差は昨年度に比べると縮まった。</p>
	<p>課題の見られた設問</p> <p>漢字の正答率が低い問題がある。説明的文章の正答率は昨年度に比べ高くなったが、古典の知識に関する問題や文学的文章の表現の効果に関する問題の正答率が低い。</p>	<p>授業改善策</p> <p>漢字及び古典の知識をはじめとする知識・技能の確実な定着とその活用を図る。具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月1回漢字100問テストを実施する。</li> <li>・古典の単元において練習問題を多く取り入れる。</li> <li>・詩・短歌・俳句の韻文の読み取りを丁寧に指導する。</li> </ul>	

	内容別結果の分析	観点別結果の分析	正答率分布等も踏まえた調査結果の全貌
第1学年	<p>・全体の教科の正答率は、区平均をやや下回り、全国平均よりも低いため課題がある。</p> <p>・「縄文時代～平安時代」と「鎌倉時代、室町時代」の項目について、目標値、区・全国平均を下回り課題が見られる。</p> <p>・領域別に見ると「我が国の歴史」は、目標値、区・全国平均を下回り課題が見られる。</p>	<p>・「知識・技能」の観点は、区平均と同じであるが、「思考・判断・表現」の観点は1.1ポイント下回っている。「主体的に取り組む態度」は1.9ポイント下回っている。</p> <p>・全国平均と比較すると「知識・技能」は1.6ポイント下回っている。「思考・判断・表現」は0.9ポイント上回り、「主体的に取り組む態度」は0.4ポイント下回っている。</p>	<p>正答率の分布は、概ね区全体の分布と変わらない。今のところ正規分布に近い形になっている。一方で、0点の生徒が多い。区全体で5名のところ、本校だけで3名の生徒が0点である。</p>
	課題の見られた設問	授業改善策	
	<p>①日本国憲法の国民の権利および義務の理解の問題は目標値から8.6ポイント減であった。</p> <p>②縄文時代～平安時代の大陸文化の摂取の理解についての問題は目標値から9.1ポイント減であった。</p> <p>③安土桃山時代、江戸時代の江戸時代の国学についての理解の問題は目標値から10.0ポイント減であった。</p> <p>④明治時代～昭和時代の条約改正についての理解の問題は目標値から12.8ポイント減であった。</p>	<p>・毎時間スライドを用いた授業を行い、生徒の意欲を高めつつ、資料に触れる機会を増やす。</p> <p>・一問一答の用語集を配布することで、社会科の用語に親しむ機会を増やしていく。</p> <p>・小テストをGoogle Formで実施(年間18回を予定)して、継続的な学習の意識づけを行いつつ、知識の定着を図る。また、正答率をもとに授業改善を行う。</p> <p>・単元テストを行い(年間6回を予定)広い範囲での知識(小テストの内容の確認も含む)や思考の定着度を確認して、指導の改善に生かしていく。</p> <p>・授業をプリント形式にして、生徒の各時間を減らし、その分考える時間を確保していく。</p> <p>・定期テストや授業内で、複数の資料を読み取る経験を多く積ませていく。</p>	
第2学年	内容別結果の分析	観点別結果の分析	正答率分布等も踏まえた調査結果の全貌
	<p>①世界各地の人々と生活と環境の問題は目標値より5.5ポイント減であった。</p> <p>②世界の諸地域の問題は目標値より5.4ポイント減であった。</p> <p>③縄文時代から古墳時代にかけての年表の表し方についての問題は目標値より4.3ポイント減であった。</p>	<p>・3観点において主体的に学習に取り組む態度以外の項目は目標値・全国・区平均全て下回っている。</p> <p>・特に「知識・技能」においては全国平均より1.9ポイント下回っている。</p> <p>・「思考・判断・表現」も全国平均と比べると1.8ポイント下回った。</p>	<p>正答分布率において、41.6%の生徒が、正答率50%を上回った。最大人数が50～80%の中に位置した。正答率90%～100%の生徒は全体の0%と非常に少なかった。評定別人数比では2と4が目立ち、二極化の状態が顕著である。</p>
	課題の見られた設問	授業改善策	
	<p>①ヨーロッパ州の特色を資料とともに考察する内容の定着に課題が見られる。</p> <p>②中国文明や浄土信仰の広まりに関する内容理解に共通して課題が見られる。</p> <p>③複数資料を関連させる問題については無解答が増える傾向がうかがえ、目標値から正答率が大きく下回った。</p>	<p>・特に世界の人々の生活と環境や世界の諸地域の問題での知識・技能に関しては、単元毎に用語が確認できる振り返りシートや小テストなどを活用し、繰り返し復習する機会を充実する。</p> <p>・思考・判断・表現に関しては、日常の授業において資料を読み取り、意見を共有する対話的な学習や学習課題を設定していく。</p> <p>・複数資料の関連づけや、資料から読みとった歴史的事象と、その事象が与えた影響に関して答える設問に共通して課題が見られた。これらに対しては、①資料同士の関係性を考える活動を生徒とのやりとりを通して丁寧に行うこと、②歴史的事象の意味や意義を考えさせる活動や課題を設定し、指導していく。</p>	
第3学年	内容別結果の分析	観点別結果の分析	正答率分布等も踏まえた調査結果の全貌
	<p>領域を見ると「ヨーロッパ人との出会いと全国統一」において、目標値、全国平均を6ポイント程度下回る傾向があった。「明治時代」においては、ほとんどの項目で目標値、区平均、全国平均を10ポイント程度下回った。</p>	<p>3観点においての比較では、すべての観点で全国平均を下回っている。特に知識・技能の領域では約5ポイント下回った。区平均との比較では全てが若干下回るものの全ての観点が同程度であった。</p>	<p>正当分布率において、52%の生徒が、正答率50%を上回った。最大人数が50～60%の中に位置した。正答率90%～100%の生徒は全体の2.5%と非常に少ない。評定別人数比では2と4が目立ち、二極化の状態が顕著である。</p>
	課題の見られた設問	授業改善策	
	<p>①工場制手工業についての問題では目標値から14.1ポイント減であった。</p> <p>②明治政府の諸改革の問題では目標値から25.7ポイント減となった。</p> <p>③日本の地域的特色と地域区分の問題では目標値から11.5ポイント減であった。</p>	<p>・地理や歴史の基礎的な語句の習得において課題があったことに関しては、毎時間終わりに確認したり、単元毎に用語の確認テストなどを反復して取り組むことが有効と考える。</p> <p>・資料を活用する問題においては意識的に授業や定期テストで資料を扱ったり、設問として問う訓練を行ったことが得点につながったと考える。</p> <p>・記述問題に関しては、生徒が自身の記述を正解とよく見比べ、その隔たりをしっかりと認識し、より正確な表現ができるように指導していく。まず問題や課題の捉え方を指導し、何を聞かれているのかを理解させ、社会的な見方考え方をさせるため指導を行っていく。</p>	

	内容別結果の分析	観点別結果の分析	正答率分布等も踏まえた調査結果の全貌
	第1学年	<p>正答率 基礎 応用</p> <p>R5-校内平均 66.8 69.0 60.5</p> <p>R4-校内平均 70.0 70.8 67.1</p> <p>R3-校内平均 66.6 70.0 53.2</p> <p>3年間の結果を比較すると、例年と正答率がほぼ変わらないことが分かる。全国平均(65.8)との差はあまりないが上回っている。</p>	<p>知・技 思・判・表 主体的</p> <p>目標値 70.6 50.6 56.5</p> <p>全国平均 71.7 48.7 55.2</p> <p>区平均 74.0 52.7 57.2</p> <p>校内平均 72.5 50.4 57.2</p> <p>・どの観点も目標値と大きな差はないが、「知識・理解」のみ上回っている。基本的なことは理解しているが、数学的に深く考える能力が不十分である。</p>
課題の見られた設問		授業改善策	
	<p>・概ね校内正答率は目標値を上回っているが、単位量あたりの値を求める式を選択する問題(-7.2)、図をもとに、全体を1として比を使って部分の数量を求める問題(-9.6)、比較量と割合から、基準量を求める問題(-8.8)、2つの帯グラフを正しく読み取り、比較する問題(-9.0)が大幅に下回っている。</p>	<p>・文章を正しく読み取って式に表すこと、あるいは式を正しく読み取って説明すること、を苦手とする傾向があるので、問題文を部分的に切り取って図に表し(視覚化)、そこから式で表していく、というスモールステップで教える。</p> <p>・全体で見ると、基礎的な学力が定着しているが、分布を見ると定着していない層や、文字と式でつまづきそうな層も相当数存在する。この層を平均に近づけるため、単元の小テストの実施と振り返り、授業内容の復習を家庭で行い、次回確認テスト実施など、取り組みを工夫する。</p>	
第2学年	<p>内容別結果の分析</p> <p>正答率 基礎 活用</p> <p>目標値 55.0 59.8 41.3</p> <p>全国平均 53.4 59.5 35.9</p> <p>区平均 58.1 63.9 41.4</p> <p>校内平均 55.8 61.6 38.9</p> <p>・基礎問題は目標を1.8ポイント上回っているが、活用問題では2.4ポイント下回っている。基礎的な力はあるがそれを活用する能力の向上が課題である。</p> <p>・また、領域別では、「数と式」と「図形」は目標をそれぞれ1.7、4.4ポイント上回っているが、「関数」「データの活用」はやや下回っている。値やデータを深く読み取る力が必要である。</p>	<p>観点別結果の分析</p> <p>知・技 思・判・表 主体的</p> <p>目標値 59.8 38.6 42.3</p> <p>全国平均 58.9 34.5 38.6</p> <p>区平均 63.5 39.6 44.4</p> <p>校内平均 61.3 36.8 42.1</p> <p>・どの観点も目標値と大きな差はないが、「思考・判断・表現」のみ下回っている。基本的なことは理解しているが、数学的に深く考える能力が不十分である。</p>	<p>正答率分布等も踏まえた調査結果の全貌</p> <p>学年では正答率60～70%、80～90%の2カ所に集団ができており、生徒の習熟度が2つの層に分かれている。</p>
	課題の見られた設問	授業改善策	
	<p>・概ね校内正答率は目標値を上回っているが、正負の数の絶対値に関する問題(-7.6)、比例・反比例の関数の意味を考える問題(-5.9)、データの分布で範囲について正しい内容を読み解く問題(-8.3)と相対度数の度数折れ線から傾向を分析する問題(-16.9)のみ大幅に下回っている。</p>	<p>・数学の活用する力を向上させるために、身近なことから数学を用いて解決できるような問題を授業やテストなどに取り入れる。また、結果だけでなく、考え方や途中経過を常に習慣をつけるように指導したり、発表や教え合いなどを通して、生徒間で多様な考え方を理解し合い、主体的に学習していく意欲の向上を図る。</p> <p>・全体で見ると、基礎的な学力が定着しているが、分布を見ると定着していない層の人数も相当数存在する。この層を平均に近づけるため、基本的な内容の小テストの実施と振り返り、家庭学習において復習が理解の確認ができるように宿題だけではなく、webでのドリルの実施をしていく。</p>	
第3学年	<p>内容別結果の分析</p> <p>正答率 基礎 活用</p> <p>目標値 55.0 61.7 39.4</p> <p>全国平均 54.0 61.8 35.6</p> <p>区平均 57.6 64.9 40.5</p> <p>校内平均 55.8 63.2 38.4</p> <p>・領域別では、「図形」「データの活用」は目標をそれぞれ上回っているが、「数と式」「関数」はやや下回っている。基本的な計算の技能向上が必要である。</p>	<p>観点別結果の分析</p> <p>知・技 思・判・表 主体的</p> <p>目標値 60.5 44.0 42.0</p> <p>全国平均 60.3 41.3 37.8</p> <p>区平均 63.3 46.1 42.4</p> <p>校内平均 62.3 42.7 40.3</p> <p>・どの観点も目標値と大きな差はないが、「知識・理解」のみ上回っている。基本的なことは理解しているが、数学的に深く考える能力が不十分である。</p>	<p>正答率分布等も踏まえた調査結果の全貌</p> <p>正答率20～40%、50～60%、70～80%の3カ所に集団ができており、生徒の習熟度が3つの層に分かれている。</p>
	課題の見られた設問	授業改善策	
	<p>・1次関数を利用した動点の問題は、目標値から10ポイント近く下がっている。</p> <p>・箱ひげ図からデータを読み取る問題は、目標値から10ポイント近く下がっている。</p>	<p>・1次関数を利用した動点の問題は、1次関数の知識・技能を習得することで解ける問題である。2変数の関係を捉え、その関係を視覚的に表すことの指導を積み重ねる。そして動点の問題では点が動く様子をイメージさせながら指導を行う。</p> <p>・箱ひげ図では沢山の用語があり、それを提示するだけでなく生徒自身が使いこなす、データを読み取る練習を繰り返していく。</p>	

	内容別結果の分析	観点別結果の分析	正答率分布等も踏まえた調査結果の全貌
第1学年	<p>てこのはたらき、電気の利用、水よう液の性質は全国平均に達しているが、物の燃え方、生物とかんきょう、月と太陽は平均を下回った。 大地のつくりと変化、植物のつくりとはたらき、動物のからだのつくりとはたらきは平均を大きく下回った。</p>	<p>観点別結果の分析では、すべての項目で全国平均を下回った。主体的に学習に取り組む態度は大きく下回った。</p>	<p>分布の山を見ると、約25%の生徒が正答率50%台で、一番多かった。ついで、約22%の生徒が正答率60%台、約18%の生徒が正答率70%台であった。</p>
	<p>課題の見られた設問</p> <p>①地層にふくまれるつぶの特徴から、火山のはたらきでできた地層を判断し、その根拠を説明する。【目標値から20.6ポイント減】 ②蒸散について理解している。【目標値から16.5ポイント減】 ③ヒトの小腸と大腸の位置やはたらきについて理解している。【目標値から10.7ポイント減】 ①③思考・判断・表現の設問に課題が見られる。 ②語句の意味、漢字の定着に課題が見られる。</p>	<p>授業改善策</p> <p>・基礎的な知識を確実に定着させるため、授業の中で「知識の確認」等のまとめを行った。定期的な家庭学習課題を出すことで定着を図る。 ・実験・観察の中で、班で話し合いを促し、表現力を向上させ、さらにデータの分析や考察を書かせることで思考力、判断力、表現力を養う。 ・主体的に学習に取り組む態度を高めるために、実験・観察で個々に役割を担わせることで興味を引き出し、主体的に学ぶ態度を向上させる。 ・思考力や表現力を向上させるために、実験だけでなく課題に取り組む際にも、話し合ったりする学び合いの場を設定し、表現力や思考力の向上させる。</p>	
第2学年	<p>「地球」の領域のみ全国平均・区平均を大きく下回っている。他の領域は全国平均・区平均を上回った。</p>	<p>「主体的に学習に取り組む態度」の観点は、区平均とほぼ同じであった。全国平均は下回った。他の観点は全国平均・区平均を上回った。</p>	<p>分布の山を見ると、約21%の生徒が正答率60%台で、一番多かった。ついで、約20%の生徒が正答率80%台、約15%の生徒が正答率70%台であった。評定4が40%、5が4%で約45%は4.5の評定となる。ついで2の評定の割合が40%、3の評定が15%と中間層は少ない。</p>
	<p>課題の見られた設問</p> <p>①単子葉類の根のつくりと子葉の枚数を理解している。【目標値から9.3ポイント減】 ②がくについて理解している。【目標値から20.9ポイント減】 ③石灰岩とチャートの特徴を理解し、区別する方法を説明できる。【目標値から19.6ポイント減】</p>	<p>授業改善策</p> <p>昨年度の結果よりも良い方向となっている。 ・重要語句の理解や知識を小テスト等で確実な定着を目指す。 ・実験や観察を通して、より科学的な根拠を明確にした、思考力・判断力・表現力の養成を行う。石灰岩とチャートについては演示で終わらせたので、生徒実験にすると改善ができる。</p>	
第3学年	<p>「粒子」、「生命」の領域は全国平均を上回っている。 「エネルギー」、「地球」の領域は全国平均を下回っている。 「粒子」、「生命」の領域で目標値を超えている。</p>	<p>「知識・技能」、「主体的に学習に取り組む態度」の観点は、全国平均を上回っている。 「思考・判断・表現」の観点で、全国平均を下回っている。 ・全観点において、区平均を上回っている。</p>	<p>分布の山を見ると、約23%の生徒が正答率50%台で、一番多かった。ついで、約19%の生徒が正答率30%台、約13%の生徒が正答率40%台であった。</p>
	<p>課題の見られた設問</p> <p>①電熱線のつなぎ方と抵抗の大きさの関係と、電圧・電流の関係を表したグラフの傾きについて指摘できる。【目標値から16.0ポイント減】 ②雲画像から、そのときの天気図を推測できる。【目標値から15.0ポイント減】 ③気圧と圧力、質量と重力の関係を理解している。【目標値から12.2ポイント減】</p>	<p>授業改善策</p> <p>・昨年度の当該学年の2年次の結果と比較すると、どの観点においても区の平均を上回っており(全国平均では3観点を、2観点が上回っている)昨年度の授業改善策が功を奏していると考えられる。よって、以下の3点を引き続き行っていく。 ・重要語句の理解や知識を活用させることによって成功体験を導き、科学が生活に即していることを実感させつつ「主体的に学習に取り組む態度」の醸成を行う。 ・実験や観察を通して、より科学的な根拠を明確にした、思考力・判断力・表現力の養成を行う。 ・知識・技能の定着のために、ほぼ毎時間、問題練習の時間を設ける。</p>	

		内容別結果の分析	観点別結果の分析	正答率分布等も踏まえた調査結果の全貌
第2学年		<p>正答率は平均と上回っている項目と下回っている項目が同じくらいある。上回っている項目は目標値と比べて5ポイントほどの差であるが、下回っている項目は10ポイント以上の差があるものもある。【リスニング(対話の応答)】【語形・語法の知識・理解(概要を捉える)】【長文の読み取り(概要)】【3文以上の英作文(相手に伝わるように)】は15ポイント以上の差がある。</p>	<p>・リスニングは目標値に達していない項目が半数である。要点をまとめる項目や質問に対しての応答の正答率が低い。 ・リーディング、ライティングに関しては基本文は理解できているようだが、応用力に課題があるように思われる。概要を把握したり、要点をまとめるのが苦手な生徒が多い。</p>	<p>正当分布率において、全クラスとも正答率の分布がばらついている。40%と70%のあたりにわりかし多く集まっている。 10~30%の生徒も少なくなく英語力の2分化が見られる。</p>
		<p>課題の見られた設問</p>	<p>授業改善策</p>	
第3学年		<p>・全体的には目標値より0.2ポイント下回っているが、平均スコアを0.2ポイント上回っている。 ・基礎は目標値を0.4ポイント上回り、活用は1.5ポイント下回っている。 ・リスニングにおいてはほとんどの項目で5ポイント以上上回っているが、【さまざまな英文の聞き取り】では、約1ポイント目標値より下回っている。 ・【長文の読み取り】が目標値を約6ポイント下回っていて、苦手とする生徒が多いことがうかがえる。</p>	<p>・聞くことの領域において、リスニングにおいてはほとんどの項目で5ポイント以上上回っているが、基礎問題は対応できているが、活用問題はスコアが取りにくいことがうかがえる。 ・読むこと、書くことの領域においてはどちらも0.1~0.2ポイント目標値より下回っている。</p>	<p>・正答率50%以上70%未満に約4割の生徒が属していて、それ以上は約3割と全体的に英語力の2分化がみられる。 ・生徒の英語習得状況の差を加味したうえで、個別最適な学び・協同的な学びの双方を取り入れ、学習活動の充実を図る必要がある。</p>
		<p>課題の見られた設問</p>	<p>授業改善策</p>	
		<p>・「対話文を読み、基本的な語形・語法を理解している(動名詞)」「英文を読み、概要を捉えて適切なスライドを選んでいる」問題の正答率が最も低く、その他の3つの読むことの設問も正答率が低い。読むことの領域においての正答率が低い。 ・「対話の流れに合った英文を、相手に伝わるように書いている」問題においても正答率の低さがみられた。</p>	<p>・読むことにおいて、授業のウォーミングアップの帯活動として、短い文を時間を計りながら読む練習を引き続き行い、読むことに対しての苦手意識をなくさせ、読解力や速読力の向上を図る。 ・書くことにおいて、身近で身の回りで起こったことなど、体験に基づいた話題について簡単な3文程度の文を書く取り組みを増やす。数名発表させ、発表者の文について、全体でシェアすることでお互いの語彙力や表現力の向上に繋げる。 ・聞くことにおいて、引き続きリスニング活動や教師のクラスルームイングリッシュにて、英語の授業において聞く活動を心がけながらも、生徒自身の英語発話を増やさせたい。</p>	